

## 名誉会員追悼



故 名誉会員 山本全作氏

一般社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、元新日本製鐵株式会社代表取締役副社長、山本全作氏は平成27年11月2日ご逝去されました。享年88歳。ご逝去の報に接し謹んで哀悼の辞を申し上げます。

氏は昭和23年3月東京大学工学部冶金学科卒業後、日本製鐵株式会社に入社、富士製鐵株式会社室蘭製鐵所転炉課長、製鋼部副長、本社生産管理部副長、大分製鐵所建設本部設備部長、新日本製鐵株式会社大分製鐵所製鋼部長、同所生産技術部長、同所副所長を経て54年取締役、56年取締役室蘭製鐵所長、58年常務取締役君津製鐵所長、60年専務取締役技術本部長、62年取締役副社長設備技術本部長・総合技術センター建設推進本部長、平成元年代表取締役副社長、3年常任顧問を歴任されました。

氏は一貫して、製鋼を中心とする鉄鋼技術開発と発展に尽力されました。室蘭製鐵所においては、平炉の転炉化を推進されました。稼働間もない転炉法の発展を予知され、溶製鋼種拡大を図るべく試験転炉を建設し、特殊鋼の転炉溶製操業技術を開発、確立されました。これが、世界に先駆けて同社の転炉化が急速に進展する原点となりました。また、連続鋳造法の将来性をいち早く見通し、国産連続鋳造機の開発試験に取組み、設備操業技術に貢献されました。昭和44年に粗鋼年産1千万tを前提とした大分製鐵所建設にあたって、当時の常識を破る全連続鋳造方式を企画推進、世界最大の大型高炉の建設と原料荷上シーバースに始まる斬新かつ機能的な大型設備配置および一貫工程管理システムの構築、製鋼一圧延直結プロセス化等の推進により、世界最先端の高生産性、省エネルギーの鉄鋼製造の実現に尽力されました。これらのコンセプトは世界標準となり、同社並びにわが国の鉄鋼業が世界をリードするに至った大きな役割を果たされました。

氏のこのような先見性と卓抜な実行力は、全体を考え公を第一にされる高い志と、未知なるものに立ち向かう勇氣と強い意思に裏打ちされていました。また、人材育成の重要性を常に考え、若手技術者を励まし、厳しくも温かく見守り指導されました。その高潔で人間味溢れるお人柄から、氏は人を惹きつけてやまない存在でした。

氏は本会において昭和62年理事、副会長、平成5年評議員を歴任され、昭和59年服部賞、平成4年渡辺義介賞を受賞、8年名誉会員に推挙され、12年製鐵功労賞を受賞されました。本会以外においても、鐵鋼スラグ協会会長、日本金属学会会長、金属系材料研究開発センター理事長、工業所有権協力センター理事、知的財産研究所理事等の多くの要職を歴任され、その深い学識と見識、豊富な経験により、わが国の科学技術の発展と産業の育成発展に貢献されました。その功績により、4年藍綬褒章を受章されました。

氏が鉄鋼技術と本会の発展に尽くされた多大なご業績を偲び、会員一同、心から哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成28年6月

日本鉄鋼協会 会長 丹村洋一